

## 最終評価 市民意見ヒアリング結果

## ■仁徳陵をまもり隊（令和5年2月2日実施）

- ・平成18年発足時から、世界遺産登録の取組を通じて、地域住民の古墳周囲の環境保全についての意識は確実に向上した。コロナ禍で地域の清掃活動ができてない間も、散歩中のごみ拾いや自宅前の清掃により個人レベルでは継続されており、外からの来訪者もゴミを出さないような環境になった。
- ・仁徳天皇陵古墳の正面側の整備は進んだと思う。まち歩き・自転車周遊する人も増えており、トイレや休憩所、お店の取り込みを含めて、全庁的に連携してしっかり取り組んで欲しい。
- ・大仙公園は、外からの来訪者（観光客）と一般の利用者（市民）両者が喜ぶ公園にして欲しい。
- ・大仙公園にすべての小中学校が校外学習にくるような雰囲気、古墳を周って、学んでもらうような仕組み（コンテンツ）を期待する。
- ・建物・屋外広告物の規制により、屋外広告物（看板）が減り、建物の外壁も落ち着いた色が増えた。景観が良くなったと実感しているが、満足せずに引き続き取り組んでほしい。

## ■環濠茶論（堺環濠町づくり推進協議会）（令和5年1月24日実施）

- ・山口家住宅・清学院のような公開施設が少なく、現状では一つ一つのコンテンツも弱いように感じている。
- ・伝統産業を集めてきて見学・体験・購入できるとか、観光にできるものを全部集約するとか、人を呼ぶ目玉となるものを新たにつくり、その周囲にある本物に足を運んでもらうという仕掛けが必要だと思う。それができれば、堺は1日では周れない魅力ある場所となり、宿泊も、リピーターも増えると思う。
- ・見るところが点在しているので、つなげるための工夫が必要。歴史やストーリーがわかりにくい場所も多いので、QRコードを貼って映像で説明するなど、現地での情報発信の仕組みづくりが必要と考え、取り組んでいるところ。
- ・地域で活動する団体が増え、イベントも増えているが、単発のイベントではなく、まちの力を付けるための仕組みが大事で、そこに行政の支援があるとよい。

## ■堺観光ボランティア協会（令和5年1月23日実施）

- ・伝統産業の実体験がコンテンツとして最も人気がある。そのようなガイドを増やしていくために施設やネットワークの充実を期待する。
- ・大仙エリアは、施設や案内板が充実してきたが、外国語対応ができていないものが多い。
- ・環濠都市は、百舌鳥エリアと比べて、整備（来訪者対策）が遅れていると感じる。ガイドをしていて困っている点は、トイレが少ないこと。また、北部は大型バスの駐車場がなく不便。
- ・歴史資源の多い堺区以外でもウォーキングツアーの要望が増えており、全市的な意識の高まりを感じるが、トイレや駐車場という課題がある。

## ■堺市地域文化遺産実行委員会（令和5年1月24日実施）

- ・伝統祭礼への補助事業を通じて、次の世代への技術・知識をつなげられたと感じる。また、複数の太鼓会でき取り組む中で修理等について情報交換をするなど横の連携が図れるようになり、作り手（修理業者）とのコミュニケーションも活発になった。
- ・コロナ禍で祭りができないことで、収入がないという資金面の問題と、特に経験の少ない若年層で、担ぎ方を身体が忘れてしまうという技術面の影響が大きかった。継続することで技術が維持・継承できるということがわかった。
- ・祭りは、純粹に楽しいという意識も強く、毎年の楽しみとして継続していく大きな原動力となっている。伝統を守るという意識は、継続する中で育まれればよいと思っている。
- ・少子化により担い手不足の問題はあるが、青年団同士など、他地域との交流を通じた参加者や、堺でも、伝統に厳しいと思われる地方でも、女性参加のかたちが模索されている。